

施策番号	施 策 名	学校教育の充実	基本目標	心豊かで輝く人と文化を育むまちづくり		
			政策名	豊かな心を育む人づくりと生涯にわたる学びの充実		
2-1-1						
	主 管 課	教育推進課	課長名	坂 口 勝 己	内 線	441
	施策関係課					

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図				結果		
地域社会と連携しながら信頼される学校づくりを推進し、新しい時代を自ら切り拓くことができる心身豊かな人づくりを目指します。		児童生徒		・確かな学力、豊かな心と健やかな体を育み、未来を切り開くための資質・能力を身につける				児童生徒が社会に出たときに自立できる		
成果指標		説明	単位	策定時(基準値)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績	2026年度目標	
①	「授業の内容がわかる」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	72.9 (R3)	77.6	72.8			80.0	
②	「自分にはよいところがある」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	79.5 (R3)	84.8	89.3			80.0	
③	「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合	全国学力・学習状況調査	%	87.7 (R3)	82.0	78.8			90.0	
④										
成果指標設定の考え方		成果指標の設定は、全国学力・学習状況調査の結果を採用し、①「豊かな学力」、②「豊かな心」、③「健やかな体」を育む上で、3つの指標を設定した。 目標値の設定は、各成果指標共に5%程度の上昇を目指し設定した。								

2. 施策の事業費

	策定時決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費（千円）	1,033,264	929,243	935,579		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察									
①2024年度の 成果評価 (前年との比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した		想定され る理由	指標①は少人数学級編成、授業改善、不登校支援、ICT教育環境の整備など、個に応じた指導の充実を図ったが回答者入れ替えによる減少、指標②はコミュニティ・スクールの推進や積極的な児童生徒の指導の推進による増加、指標③は食育・食農教育の充実を図るも、家庭との連携不足による減少と想定される。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった								
	<input type="checkbox"/> 成果は低下した								
②第5期総合計 画後期実施計画 (2026年度)の最 終的な目標達成 状況	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成でき る		根拠 (理由)	指標①②の目標達成に向け、少人数学級編制や習熟度別少人数指導、特別支援教育の充実、不登校支援システムの活用、ICT教育環境の整備など、誰一人取り残すことのない個に応じた学びの場の充実や、コミュニティ・スクールの推進を図っているが、これらの取組を推進により、指標①の目標達成と指標②の更なる向上を目指す。 指標③の目標達成に向け、栄養教諭・管理栄養士による全校の全学級を対象とした食育指導や食農教育の充実を図っているが、児童生徒の基本的な生活習慣の確立に向けた家庭との連携の推進により、目標の達成を目指す。					
	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難し いが、現行事業の見直しや新規事業 の企画実施で目標達成は可能								
	<input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施 をしても目標達成は難しい								
(2) 施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括									
①施策の成果向 上に対して貢献 度が高かった事 務事業	①児童生徒支援事業		②施策の成果向 上に対して貢献 度が低かった事 務事業						
	②小学校(中学校)教材・教具支援事業								
	③コミュニティスクール運営事業								
③事務事業全体 の振り返り(総括)	・事業①⇒町独自に令和5年度から小中学校全学年30人以下学級編成のため町独自で臨時教諭を配置したほか、特別支援教育の推進のための地域コーディネーターや教育活動指導助手、学校支援員を配置、不登校支援システムによる個に応じた支援を推進した。 ・事業②⇒GIGAスクール構想推進のため継続して教育DX推進員やICTヘルプデスクを設置しているほか、通信速度の改善や授業支援ソフト導入を図る等、ICT活用推進のための環境を整備した。 ・事業③⇒コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育を推進し、「めむろ未来学」の推進を通して「夢育・郷育」の醸成が図られた。								
	(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)								
担当課 評価	少人数学級編成、特別支援教育、不登校支援、ICT教育環境の整備、医療的ケア児対応など、誰一人取り残すことのない個に応じた学びの場の充実やコミュニティ・スクールの推進を図ったが、成果指標は上昇と減少が混在したことから、施策全体としては計画策定時と比較し変わらない又は維持したと考える。			進捗結果	A	B	C	D	E
								○	

A: 実現した                      B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した                      C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した  
D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した                      E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	《施策を取り巻く状況》 ①学校施設等の老朽化対策や多様なニーズへの対応 (R1:学校施設等長寿命化計画策定) ②医療的ケア児を含む特別支援教育を必要とする児童生徒の増加への対応 (R2: 地域コーディネーター複数配置) ③ICT教育推進への対応 (R6:第2期ICT整備・活用指針策定) ④登校に困難を抱える児童生徒の増加への対応 (R6: 不登校支援システム一部改訂) ⑤部活動の地域移行への対応 (R6: 部活動地域移行推進協議会設置)  《今後の予測》 ①小中学校配置計画 (R8策定)による、児童生徒数の減少を踏まえた計画的整備 ②児童生徒支援のための人的配置やIT技術等を活用した取り組み ③ICT活用指針に基づく情報活用能力の育成、授業改善、校務の情報化の推進 ④不登校支援システムに基づく、組織的取組の定着 ⑤「部活動の地域展開」に向けた町の方針の策定
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	・児童数減少により複式化が予想される学校保護者等から、次期小中学校配置計画に向けた意見や要望がある。⇒R5～R6:PTAや地域住民と意見交換を実施、R7:アンケート調査や諮問機関における審議実施。 ・不登校児童生徒への支援が必要である。⇒不登校支援システムに基づく組織的・計画的な取組や、相談体制強化を検討、R7:相談体制の強化や道教委メタバースに参加。 ・不登校支援システムを推進する上で専門性が必要である。⇒システム策定時に有識者の意見を踏まえ策定したが、見直しを図りながら今後も継続しシステムを推進する。 ・部活動の地域移行については、慎重に取り組む必要がある。⇒R6:協議会において課題抽出や解決策を議論、R7:方向性を検討等を行う。 ・朝食摂食率を向上させる必要がある。⇒庁内横断的な取組みとして関係課で情報共有。

5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

①確かな学力の育成(児童生徒支援事業)⇒小中学校全学年における30人以下学級編制の実施等による習熟度別・少人数指導の推進、指導主事(主幹)配置による学校運営の推進と地域コーディネーター機能の充実、教育DX推進員の配置によるICT教育の推進、小中一貫教育の推進を図る。 ②豊かな心の育成(児童生徒支援事業)⇒道徳教育や情操教育の充実、「いじめ防止基本方針」「不登校支援システム」「学校風土調査」に基づく未然防止と早期発見・早期対応を図る。 ③健やかな体の育成(学校健康診断実施事業・学校給食管理運営事業)⇒基本的な食習慣や生活習慣の確立のため、食育・食農教育、生活習慣病検査など、郷育や健康教育を推進する。 ④特別なニーズに対応した教育の推進(児童生徒支援事業)⇒地域コーディネーターを中心とした発達支援システムの推進、医療的ケア児支援法を踏まえた組織的支援体制の確立を図る。 ⑤質の高い教育環境の整備(小学校・中学校教材・教具整備事業)⇒教育DX推進員の配置、AIドリルの導入などハード・ソフト・人材を一体としたICT環境の整備、部活動の地域移行に向けた町の方向性の検討、小中学校配置計画更新(R8)を見据えて児童生徒数の減少を踏まえた学校施設の計画的整備を進める。
---

6. 経営戦略会議(庁内評価)

評価	成果指標等から、維持したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	庁内評価同様に維持したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	
今後の取組に対する意見	・子どもと地域のつながりが重要になっていくので、地域の学校にかかわる人を増やすということが重要だと思う。 ・想像する力をつけさせる教育であってほしい。 ・家庭環境によって学習の機会が奪われることのないようにしてほしい。 ・教員は人事異動がある。芽室町の独自のポリシーを赴任した教員に伝えていってほしい。 ・ICT教育については不安がある。進めるのであれば、検証などはしていったほしい。 ・小学校から中学校に上がるときにPCが変わる。前の人の使用状況によって変わり、劣化の激しいものもあるため使い続けられないか。	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない又は維持した E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した					